

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	小学校情報活用教育		
担当者(Instructors)	小栗 ちず子, 平田 康訓	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)

情報通信技術 (ICT) の活用の意義と理論を理解し、ICTを効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童に情報活用能力 (情報モラルを含む) を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を習得することを目的とする。具体的には、ICTを活用する背景や理論、技術を習得した後、ICTを活用した授業方法や協働的な学習を行う授業の設計方法の演習を行う。

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	授業の3分の1は、教育の情報化に関する国の施策やICT環境の整備について講義形式で進める。次の3分の1は、デジタル教材の事例紹介やプログラミング教育の概要について講義と演習形式で進める。残りの3分の1は、演習 (模擬授業と相互評価) を中心に進める。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	情報を活用した教育の目標	文部科学省が定義する情報教育の目標について学ぶとともに、子どもたちに育みたい資質・能力について考える。	<input type="checkbox"/>
第2回	教育の情報化に関する施策	現代社会におけるICTの役割について学ぶとともに、ICT支援員やICT環境について考える。	<input type="checkbox"/>
第3回	学びを支えるICTの活用 (1) 個別最適な学びと対話的な学び	個別最適な学び、対話的な学びを支えるICTの活用について事例を交えながら考える。	<input type="checkbox"/>
第4回	学びを支えるICTの活用 (2) 情報活用能力の視点	探究を支える情報活用能力の視点からICTの活用について事例を交えながら考える。	<input type="checkbox"/>
第5回	遠隔授業・オンライン教育の有用性	遠隔授業の意義や関連する教材やシステムについて考える。	<input type="checkbox"/>
第6回	校務の情報化とデータの活用	ICTを効果的に活用した校務の推進について学ぶとともに、教育データの効果的な利用方法について考える。	<input type="checkbox"/>
第7回	プログラミング教育の概要	2020年度から必修化されたプログラミング教育について考える。	<input type="checkbox"/>
第8回	プログラミング教育の実際 (1) プログラミングの基礎知識と教材作成	プログラミング教育について考え、教材等を実際に作成する。	<input type="checkbox"/>
第9回	プログラミング教育の実際 (2) 授業の構築	プログラミング教育について考え、教材等を実際に作成する。	<input type="checkbox"/>
第10回	情報活用能力を育成するための指導法	小学校の各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における情報活用能力 (情報モラルを含む) の育成について事例を交えながら考える。	<input type="checkbox"/>
第11回	ICTを活用した授業の構想	実際に小学校教師になったことを想定して、情報活用能力を育成するための授業を考える。	<input type="checkbox"/>
第12回	ICTを活用した授業案の作成	実際に小学校教師になったことを想定して、情報活用能力を育成するための授業案を作成する。	<input type="checkbox"/>
第13回	模擬授業と相互評価 1 情報活用能力育成の視点	作成した授業案を使って模擬授業を行う。	<input type="checkbox"/>
第14回	模擬授業と相互評価 2 主体的な活動の工夫	作成した授業案を使って模擬授業を行う。	<input type="checkbox"/>
第15回	ICTを活用した授業に関する振り返りとグループ討議	ICTを効果的に活用した学習指導について振り返り、情報活用能力の育成についてグループで討議する。	<input type="checkbox"/>

■ 授業時間外学習 (予習・復習) の内容 (Preparation/review details)

--

(1) 小学校の学習指導要領を読む等して、情報教育が目指すべきものについて考える(2時間)。(2) WordやGoogleドキュメントなどのワープロソフトで文字を書いたり、表を作ったり、図を挿入したりできるようにしておく(1時間)。(3) PowerPointやGoogleスライドなどのプレゼンテーションソフトで文字を書いたり、図形を描画したりできるようにしておく(1時間)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業内で課す各レポート・課題については、採点後の授業内で解説して受講者に返却する。最後に取り組む授業案作成では、添削を行い、共通する事項について受講者全員で共有できるように授業内で補足説明する。また、模擬授業に関しては、児童役の受講者と授業者からのコメントでフィードバックする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を活用した教育の目標を説明することができる。 ・情報通信技術の仕組みと活用方法について説明することができる。 ・情報活用能力を育成するための授業を構想し、授業案を作成することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器を授業に取り入れる意味を考えることができる。 ・情報通信技術を活用した学習指導の意味を考える。 ・情報活用能力を育成するための授業を構想することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			20%	80%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

第5回のコメント(20%)、第9回の小レポート(20%)の内容を評価対象とする(40%)。
第12回の授業案、第13・14回の模擬授業の際のコメントの内容を評価対象とする(40%)。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	特になし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	小学校学習指導要領総則解説編	
2	Scratch (MIT) https://scratch.mit.edu/	
3		
4		
5		